

琉球ポリゴンによる演奏会

去る2月15日（土）に琉球ポリゴンによる演奏会を行いました。
多くの皆様にご参加いただきありがとうございます。
演奏して頂いたAKIさんと照喜名俊典さんからコメントを頂きました。



AKI（唄三線、琉球横笛）

感動、感激、想いがいっぱい溢れすぎた粟国島での演奏♪

粟国村役場のお力添えにより、演奏をさせていただきましたこと、心から感謝申し上げます！

沖縄の芸能にすっかり魅せられてから20年余り。正規教師職を退職して、沖縄県立芸大に社会人入学し、沖縄での生活を始めて今年で6年。

西洋クラシックをやっていた若かりし名古屋音楽大学時代の恩師であり、昨年1月に旅立たれた名古屋音楽大学名誉教授、照喜名一男先生。

一男先生ご自身は京都で生まれましたが、ご両親は粟国島出身。生前からよく粟国島のお話をされたり、ご両親が眠るお墓参りへ行かれたり、離れた地からこそ感じる両親の故郷への想いを語ってみえました。

チェロ奏者であり、大学ではオーケストラの授業で指揮を振り、後進の育成、音楽に生涯を捧げられた姿には、温和で柔らかい中に、情熱と力強さが溢れていました。

今回の選曲は、照喜名一男先生にちなんだ曲をチョイスしました。先生のルーツである粟国島への想いを描いた曲、生まれ育った京都にまつわる曲、琉球ポリゴンメンバーの故郷でもあり、先生が音楽に生涯を捧げた名古屋、愛知にまつわる曲、そして誰にでもある故郷をテーマに選曲し、琉球ポリゴンならではのスタイルで構成。

そして今回のステージでは何よりも、粟国島の方々とむんじゅる節、粟国島の2曲で一緒にさせていただきましたことに感激でした！

芸大時代に舞踊と地謡合わせで学んだ“むんじゅるー”。昨年秋に、奥武山スタジアムで開催された、離島フェアでの粟国島の皆さんの演奏。

そして、粟国島という曲からは、次世代の子どもたちに芸能を継承していこうとしてみえる姿や、地域が子どもたちを育て、芸能が地域を守り、発展させていく力を感じました！

演奏会最後には、一男先生の遺された作品の中から、“さよならあした”を会場の皆様とも一緒にさせていただきました。

一男先生が高校生の頃に、粟国島を訪れ、島の子どもたちと遊んだ思い出を歌にされたという曲。

今回、島の皆さんと音を共に重ねさせてもらえたことに大変重要な意味を感じずにはおれません。

粟国島に何う何日か前の天気予報では、演奏当日は雨マークでしたが、到着しフェリーを降りた瞬間、眩しいぐらいに光が差し、真夏の晴天。

いつもニコニコだった先生の笑顔と重なりました！

ありがとうございました！



照喜名俊典

父が作曲した粟国への思いが込められた曲を演奏させていただいたのに加え、島の方の演奏や踊りからも大いに刺激をいただきました。そしてその中に、門中の方がいらっしゃって念願のお墓参りにも連れて行っていただきました。島に来る前は「だんだん親戚も知っている方も少なくなっていくんだなあ」と寂しく思っていたのに、今回、いろんな方にお世話になって濃い繋がりができたことに心から感謝しています